

# 第1学年1組 生活科学習指導案

令和4年12月12日

展開場所 生活科室

- 1 単元名 あきとあそぼう ～みつけた！あきのたからもの～  
内容（5）「季節の変化と生活」内容（6）「自然やものを使った遊び」

## 2 単元について

### (1)単元観

本単元は、小学校学習指導要領の内容（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする」と、内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」の2つの内容を受け設定したものである。秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって関わり、自然や身近にある物を利用した遊びを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、自分と友達とのつながりを大切にしながら、毎日の生活を豊かにしていくことを目指している。

### (2)児童観

本学級の児童は、入学前から身近な自然や身近にある物を使った遊びを経験しており、身近にある公園で友達と遊ぶことが好きである。一方で、6月の公園探検では遊具遊びや鬼ごっこをする児童が多く、自然をつかった遊びを楽しんだり、生き物と触れ合ったりする児童は少なかった。実態調査では、家庭等の室内ではゲームで遊ぶ児童が多く、手作りで遊びを楽しむ経験が乏しいことが分かった。本校の周辺には小さな公園がいくつかあるものの、自然のよさを存分に味わえる緑の多い公園や広場が少ないことが関係していると考えられる。そこで、諸感覚を使って季節を感じながら遊んだり、自然と親しんだりする活動を計画的に取り入れていく必要があると考えた。また、児童の多くが、児童だけで遊びのルールや遊び方を考えて遊んだ経験をしている。友達に自分の話をしたり、友達の話の聞いたりすることが好きな児童が半数以上いることも分かった。伝え合い、交流する活動を大切にし、自分の考えを広げることのよさを実感できるような指導を工夫する必要があると考える。

### (3)指導観

単元の導入時に、夏と秋の学校や公園、町の写真を提示し、夏から秋への移り変わりに気付かせる。夏から秋になって変わってきた町の様子について話し合い、さらに見付けてみたい秋について発表し合う。「もっと秋を見付けたい」という児童の意欲を引き出し、次時の公園探検につなげていきたい。公園では、夏とは違って木の実や落ち葉などが多くあることに気付かせ、自然を使った遊びを経験する時間をたっぷりとする。児童は、ドングリをコマのように回したり、オナモミでの的あてをしたりするなど、秋を楽しむだろう。その際、学習をこまめに振り返り、表現する活動を取り入れる。体験活動と表現活動を繰り返すことにより、一人一人の気付きを確かなものにしていけると考える。

単元が進むにつれて、遊びの幅が広がり、最初は一人で遊んでいた児童が友達と一緒に遊ぶようになると考えられる。みんなで遊ぶ中で、約束やルールがあると遊びが楽しくなることや、みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感させていきたい。さらに、単元の最終に位置する「あきまつりにみんなをしょうたいしよう」への見通しをもたせることで、相手意識・目的意識をもって友達と関わり合えるようにしていきたい。

### 3 単元の見つけ方

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

### 4 単元の観点別評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		○秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子から夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	○秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	○秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。
小単元における評価規準	1	①校庭や公園、町の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気付いている。 ②校庭や公園、町の秋の自然はいろいろな遊びに利用できることに気付いている。	①諸感覚を生かして、校庭の秋の自然に関わっている。 ②諸感覚を使って見つけた秋を比べたり、たとえたり、言葉で表現したりしている。	①秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭や公園、町の秋の自然と繰り返し触れ合おうとしている。 ②校庭や公園、町の秋の自然の様子や特徴に応じながら、それらと関わろうとしている。
	2	③遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。	③秋の自然を使った遊びを自分なりに工夫しようとしている。	③思いや願いをもって、遊びや遊びに使う物を粘り強くつくろうとしている。
	3	④遊びには約束やルール、大切なことがあると知り、それらを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 ⑤みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	④みんなで楽しむことのできる約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。	④みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。
	4	⑥友達に上手に接することができるようになった自分の成長に気付いている。	⑤相手の立場になって考え、遊びの準備をしたり、プレゼントを作ったりしている。	⑤友達と一緒に楽しく遊ぼうとしている。

## 5 指導と評価の計画

次	主な学習活動	教師の指導・支援 (○) 評価 (☆)
一 あ き を さ が し に い こ う ⑥	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">あきをみつけたり、あきのあそびをたのしんだりしよう。</p> <p>○校庭で秋見付けをし、秋について知っていることや入学前に経験したことのある遊びなどを出し合う。(1)</p> <p>○西千葉公園や緑町中学校でどんな秋を見付けたいか話し合う。(1)</p> <p>○西千葉公園に行き、諸感覚を使って秋を感じながら遊ぶ。(1)</p> <p>○西千葉公園で見付けたことを紹介し合う。(1)</p> <p>○緑町中学校の校庭で、秋を探す。(1)</p> <p>○緑町中学校の校庭で見付けたことを紹介し合う。(1)</p>	<p>○季節の移り変わりに気付けるように、夏と秋の学校や公園、町の様子を写真で提示する。</p> <p>○秋をたくさん見付けられたことをもとに、「もっと秋を見付けたい」という思いを引き出す。</p> <p>☆知・技①【行動観察・発言分析】</p> <p>☆思・判・表①【行動観察・発言分析】</p> <p>☆主体①【行動観察・発言分析】</p> <p>○「もっと見付けたい、集めたい」という意識を高めるために、日常的に木の実や葉を集めておく。</p> <p>○諸感覚の活用を意識付けるために、教科書のモノクロページを活用し、秋の色に視点を向けるようにする。</p> <p>○公園に行くときの約束を確認する。</p> <p>○自然とたっぷりと触れ合うことができるようにするために、諸感覚を使った遊びを紹介する。</p> <p>○自分が気付かなかった感覚にも気付けるように、情報交換をする時間をとる。</p> <p>○学級全体で共有できるようにするために、公園での活動の様子を写真に撮っておく。</p> <p>○公園とは違った景色を楽しみながら、新たな秋を探せるように声をかける。</p> <p>○公園と同様に、活動の様子や校庭の様子の写真を撮り、公園との違い(落ちていた木の実や葉の色など)に気付けるようにする。</p> <p>☆知・技②【行動観察・発言や表現物の分析】</p> <p>☆思・判・表②【行動観察・発言や表現物の分析】</p> <p>☆主体②【行動観察・発言や表現物の分析】</p>
二 あ き の た か ら も の で あ そ ば う ③	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">あきのあそびをもっとたのしもう。</p> <p>○西千葉公園や緑町中学校で見付けたこと、面白かったことを発表し合い、もっとしてみたいことに取り組む。(1)</p> <p>○木の実や葉を使った遊びを工夫してつくる。(1)</p> <p>○友達に教えてあげたいことや、次にしてみたいことを振り返りカード「あきにつき」にかく。(1)</p>	<p>○見付けたことや楽しかったことを具体的に想起できるようにするために、活動の様子を写した写真を見せる。</p> <p>○諸感覚を使った気付きを高めるために、「どんな色」「どんな形」などの問いかけをする。</p> <p>○木の実や葉を使った遊びを考えながら、素材そのものの色や形などに気付かせるようにする。</p> <p>○次時の意欲を高めるために、遊んだことを生かして次に作ってみたいものを考えるように声をかける。</p> <p>☆知・技③【行動観察・発言や表現物の分析】</p> <p>☆思・判・表③【行動観察・発言や表現物の分析】</p> <p>☆主体③【行動観察・発言や振り返りの記述の分析】</p>

<p>三 あきのたからものでみんなとあそぼう⑤</p>	<p style="text-align: center;">みんながたのしめるやくそくやルールをかんがえよう。</p> <p>○集めた木の実や葉でさらに作りたいものを発表し合い、作りたいものを工夫して作る。(2)</p> <p>○友達と一緒に遊ぶためにどのような約束やルールがあるとよいか話し合う。(2)</p> <p>○友達と見せ合ったり教え合ったりしたことを参考に、さらに工夫を加える。(1)</p>	<p>○作りたいという意欲を高めるために、教師が見本を示し、木の実や葉を使って作ることができるものの幅を広げる。</p> <p>○実際に遊ぶことで、「遊びのルールを工夫すると楽しく遊べる」ことに気付けるような声かけをする。</p> <p>○もっと多くの人と一緒に楽しく遊びたいという意欲を高め、次の活動につなげる。</p> <p>☆知・技④【行動観察・発言や表現物の分析】 知・技⑤【行動観察・発言の分析】 ☆思・判・表④【行動観察・発言や表現物の分析】 ☆主体④【行動観察・発言や振り返りの記述の分析】</p>
<p>四 あきまつりにみんなをしようたいしよう⑥</p>	<p style="text-align: center;">みんながたのしめる「みどりっこあきまつり」にしよう。</p> <p>○どんな「みどりっこあきまつり」にしたいか話し合う。(1)</p> <p>○どんなコーナーをつくとよいか、どんな仕事があるとよいか具体的に話し合う。(1)本時</p> <p>○どんなことに気を付けたらよいか話し合い、準備を進める。(2)(図工2)</p> <p>○友達を招待して、一緒に遊ぶ。(1)</p> <p>○嬉しかったこと、頑張ったことを振り返りカード「あきにつき」にかき、自分の成長を振り返る。(1)</p>	<p>○前時で生まれた、もっと多くの人と楽しく遊びたいという児童の思いをもとに、話し合いを始める。</p> <p>○どのような活動になるか見通しをもたせるために、同じ学年の他学級の友達を招待することを伝える。</p> <p>○自分たちが作ったものを生かしたコーナーにするよう助言する。</p> <p>○主体的に取り組めるようにするために、どの児童にも自分の役割があるようにする。</p> <p>○相手の立場になって遊びの準備をすることを意識できるように声をかける。</p> <p>○「できた」という自信をもたせるために、友達との関わりで工夫したことや上手にできたことを称賛する。</p> <p>○友達に上手に接することができた自分の姿を具体的に振り返るために、活動の写真を提示する。</p> <p>○活動全体を通して自分が成長したことに気付けるように声をかける。</p> <p>☆知・技⑥【行動観察・発言や表現物の分析】 ☆思・判・表⑤【行動観察・発言や表現物の分析】 ☆主体⑤【行動観察・発言や振り返りの記述の分析】</p>

## 6 研究の視点

視点1 児童の心を動かし、主体的に問題解決しようとする指導・支援の工夫

【繰り返し秋と関わる場の設定】

児童の「秋を見付けたい、もっと遊びたい」という思いや願いを実現するために、西千葉公園、緑町中学校に秋を探しに行き、繰り返し秋と関わる。探検中に落ち葉や木の実などを使って遊ぶことが予想されるので、予め必要と予想される道具や材料をもって行き、必要に応じて使えるようにすることで、活動を広げていきたい。児童は、秋の自然を使った遊びを繰り返し行う中で、素材に

たっぴりと触れることができるだろう。遊びの中での気づきを友達に伝えたり、振り返りカード「あきにつき」に表現したりして、そこで新たに生まれた「もっと遊びたい。」「もっと工夫したい。」などの思いや願いを実現するために、また遊びを行う。このように、体験活動と表現活動を繰り返すことで、主体的に秋と関わろうとする態度を養うことができると考える。遊ぶ際、記録に残しておきたいものは、ギガタブで写真や動画を撮影し、後から見るができるようにしておく。言葉や絵だけでなく、映像として保存して繰り返し見直すことで、さらに秋と関わりたいという思いをもつことができると考える。

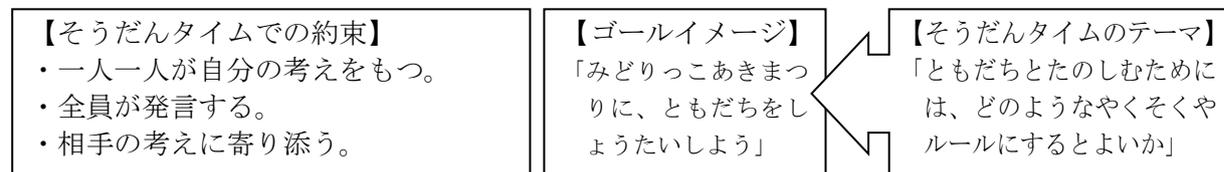
【「あきにつき」による振り返りの工夫】

具体的な活動や体験の中では、体験活動を繰り返す中で、児童は様々な気づきをするだろう。そこで、毎時間振り返りの時間を設定する。振り返りカードは「あきにつき」という名前をつけ、児童が自分なりに「秋」を捉え、かき留めていけるようにしていく。「みつけたよ」「たのしかったよ」「ふしぎだな」の3種類を用意し、児童が毎回選べるようにする。絵と言葉をかくだけでなく、そのときの気持ちを表す顔のイラストも3種類載せておき、一番近い顔に色を塗るようにする。毎時間「あきにつき」をかき留めていくことで、思いや願いの変容に気付いたり、「次はこんなことをしたい」という次時への見通しをもったりすることもできると考える。

視点2 協働的な学びの必要感をもち、自分の考えを広げる手立ての工夫

【相手意識・目的意識に基づいた話し合いの場】

身の回りの人と伝え合う、交流するなどの協働や対話によって、児童の気づきは共有され、その関係性が分かたり、新しい気づきを生んだりしていくことが期待される。そのような「協働的な学び」の実現を目指すために、話し合いの場として、少人数での「そうだんタイム」を設ける。「そうだんタイム」では、以下のような約束を決めておく。



話し合いの必要感や話し合っよかったという実感を児童にもたせるためには、目的意識が必要である。そこで、ここでは「みどりっこあきまつりにともだちをしようたいする」というゴールイメージの共有化を図る。このゴールに向けて、テーマを設定し、話し合いを進めていく。

「そうだんタイム」は、生活科に限らず他教科でも取り入れていく。毎回目標に向けて、一人一人が自分なりの考えをもち、その場の思いつきの発言になることを避けるようにする。同時に、人の話を聞くときは、自分と異なる考えを排除するのではなく、相手の考えを理解しようとするこの大切さを指導していく。ゴールイメージをもたせ、「いいな」と思うところを見付けるという具体的な指示をすることで、充実した話し合いができると考える。

【気づきの質を高める多様な学習活動】

児童が多様な学習活動を展開することで、気づきの質を高めていけると考える。そこで、児童の思いや願いに寄り添いながら、以下のように活動や体験の充実を図っていく。

①公園探検

小単元1・2では、秋を探しに公園や中学校に探検に行き、秋の自然にふれる。ここでは、様々な形のドングリを見付け、「学校の校庭では細長いドングリが落ちていたけど、公園には丸くて大きいドングリが落ちていたよ」と比較する児童がいるだろう。また、お気に入りのドングリを見つけた児童の中には、「図書室の本でドングリの名前を調べてみたら、細長いのはマテバシイ

で、丸くて大きいのはクヌギって言うんだって」と調べる児童もいるだろう。「マテバシイは細くて綺麗なお母さん、丸くて大きいクヌギはお父さんみたい」と関連付ける児童も予想される。このように、公園探検を通して「比較、分類、関連付ける」などの思考を育んでいきたい。

### ②秋と遊ぶ

小単元3・4では、公園や中学校から持ち帰った木の実や葉を使って、遊ぶ活動を行う。活動を振り返る中で、「次は何をしようかな」と活動の見通しをもったり、友達と交流を始めた。友達のドングリゴマと自分のコマを比べ、違いを見付け出し、コマを改良しようと試行錯誤する姿も見られるだろう。ここでは、ドングリの種類や形、軸の長さや位置、回し方などを工夫し、友達と意見交流する時間を十分にとっていきたい。このように、「見付ける、比べる、たとえる」などの多様な学習活動を行っていく。さらに、「試す、見通す、工夫する」学習活動を行うことで、より質の高い気付き生み出していけるようにしたい。

### ③秋を広める

小単元5では、もっと多くの人と楽しく遊びたいという思いをもとに、「みどりっこあきまつり」を行う。あきまつりへ招待する相手がいるため、相手意識をもった活動を「見通し、工夫する」ことを大切にしていきたい。活動後の振り返りでは、言葉や絵、動作化などの多様な表現活動を通して、児童が自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりすることができるようにしていきたい。

#### 【「あきみつけいじばん」による共有の場の工夫】

秋探しや秋と遊んだ際、児童は様々な気付きをするだろう。一人一人の気付きを全体で共有し、さらなる気付きへとつなげるために、「あきみつけいじばん」を設置する。「あきみつけいじばん」には、秋の自然物や遊びの種類ごとに分けて、児童が知らせたいと感じた事柄を掲示する。掲示するものは、「あきにつき」や、児童がギガタブで撮影した写真である。「ドングリごまは、細長いドングリより丸いドングリで作った方が、よく回るよ。」「マツボックリのけん玉は、紐の長さを変えると難しさが変わるよ。」など、「あきにつき」で共有した内容を自分の遊びに生かすことで、より質の高い気付きが生まれると考える。また、写真を掲示することで、言葉や絵では伝わらない内容も明確に伝わると考える。「あきみつけいじばん」での全体共有を通して、友達の考えに耳を傾けることのよさや、試行錯誤することの楽しさを味わえることを期待している。

## 7 本時の指導

### (1) 目標

- ・「みどりっこあきまつり」を企画する話し合い活動において、「相手に楽しんでもらいたい」という視点をもって、招待された人の立場で考えることができる。(思考力・判断力・表現力の基礎)

### (2) 本時で大切にしたい「気付き」

- ・話し合い活動を通して、秋の自然物を使うと様々な遊びが生み出せることに気付く。
- ・話し合い活動では、相手に楽しんでもらうためにどうするとよいか考えるとよいことに気付く。
- ・相手の立場で考えることができるようになった自分の成長に気付く。

(3) 本時の展開 (16 / 20)

学習活動と内容	教師の指導・支援 (○) 評価 (☆)
<p>1 前時までの振り返りをし、本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで自分たちが作成した遊びの面白さや、自然の不思議さについて振り返る。</li> <li>・「もっと多くの人と遊びたい」という気持ちを想起する。</li> <li>・「みどりっこあきまつり」を行うにあたり、どんなことを大切にすべきか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの活動を想起できるように、活動の写真を掲示する。</li> <li>○相手に楽しんでもらうためにどうするとよいかという視点をもたせるために、「みどりっこあきまつり」を何のために行うのか考えさせる。</li> </ul>
<p>みどりっこあきまつりで、ともだちにたのしんでもらうためにはどうしたらよいかかんがえよう。</p>	
<p>2 「そうだんタイム」の流れや約束について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ともだちがたのしめること」をテーマとして話し合いを進めることや、話し合う内容について考える。</li> </ul> <div data-bbox="183 716 853 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈はなしあうないよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなコーナーをかんがえてみたよ。</li> <li>(例) つくる、ためす、あそぶ、クイズ など</li> <li>・コーナーには、なにがひつようかな。</li> </ul> </div> <div data-bbox="183 907 853 1075" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈そうだんタイムでのやくそく〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんのかんがえたことをはなす。</li> <li>・ともだちのはなしをさいごまできく。</li> <li>・「いいな」とおもうところを見つける。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「そうだんタイム」の流れを把握できるようにするため、タイムテーブルを掲示する。</li> <li>○何について話し合うのか、何ができたらゴールなのか見通しをもたせるために、「そうだんタイム」で話し合う項目を具体的に考えさせる。</li> <li>○自分たちが遊んだときのことを思い出せるように、遊びに使ったものを手元に置いておく。</li> <li>○「そうだんタイム」の約束を確認できるようにするため、約束の一覧を掲示する。</li> </ul>
<p>本時の中核</p>	
<p>3 グループ(4～5名)ごとに分かれて「そうだんタイム」を行う。【視点2】</p> <p>《活動例》</p> <div data-bbox="167 1310 534 1355" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ドングリごまグループ</b></p> </div> <div data-bbox="167 1366 534 1579" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ドングリごまを作った人が、どのくらい回るか試すために、「おためしコーナー」をつくるのはどうかな？</p> </div> <div data-bbox="558 1310 853 1523" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>それはいいね。こまが完成した人は、友達と勝負をしたくなるよね。「こまスタジアム」を作ってみるといいかもしれないね。</p> </div> <div data-bbox="167 1646 582 1691" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>オナモミまとあてグループ</b></p> </div> <div data-bbox="167 1702 518 1881" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ただ投げるだけじゃなくて、的に点数をかいてみるのはどうかな？</p> </div> <div data-bbox="598 1624 869 1848" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>なるほど。的に当たらなかったことを考えて、一人3回まで投げられるようにしてみるといいんじゃない。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びに使ったものを一人一人が持ち、実際に見たり遊んだりしながら必要なものを考えられるように声をかける。</li> <li>○遊んだときの様子を思い出せるように、ギガタブで撮影した写真や動画を確認しながら、話し合えるようにする。</li> <li>○話し合ったことを整理できるように、どのグループにも記録用紙(コーナーで何をするのか、必要なものは何かを書き留められるようにしたもの)を配付する。</li> <li>○友達の話に耳を傾け、共感することのできた児童を大いに褒め、話し合い活動への自信をもたせる。</li> <li>○自分の考えを上手く話せずにいる児童には、自分が話したいことを今一度確認し、言葉や絵に表してから、それをもとに話してよいことを伝える。</li> </ul>
<p>4 話し合われたことを全体で共有する。</p> <p>《活動例》</p> <div data-bbox="167 2049 630 2094" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>マツボックリけんだまグループ</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれのグループで話し合われたことを紹介できるように、グループの代表者に話を聞くようにする。</li> </ul>



けんだまを作るコーナー、試すコーナー、何回連続で入れられるか勝負するコーナーを作ることになりました。

けんだまの紐の長さは何種類か用意して、作る人が選べるようにしようと思います。

### 落ち葉釣りグループ



落ち葉の魚を釣るコーナー、釣った魚と景品を交換するコーナーを作ることになりました。

景品は、落ち葉のしおりを用意して、お客さんが本当の釣りをした気持ちになれるようにしたいと思います。

- 5 活動の振り返りをする。  
・「あきにつき」に、絵や言葉で記入する。

#### 【ふりかえりのポイント】

- ・「ともだちがたのしめること」をかんがえることができましたか。
- ・じぶんのかんがえをはなすことができましたか。
- ・ともだちのかんがえのよいところをみつけられましたか。

- 6 次時の活動の見通しをもつ。

○代表者は、記録用紙をもとに話をするように声をかける。

○話し合った内容(コーナー、必要なものについての2点)をはっきりとさせて全体で話すように助言する。

○他のグループの話を聞きながら、共感したり、質問したりすることができるよう声をかける。

○全体で話す際には、より伝わるように、遊ぶものの実物を見せながら話をしよう助言する。

☆相手の立場になって考え、遊びの準備をしたり、プレゼントを作ったりしている。④

○「ともだちがたのしめること」というテーマに沿って考えることができたか振り返るよう声をかける。

○自分の思いや願いの変容に気付けるように、毎時間書き溜めている「あきにつき」へ記入させる。

○顔のイラストへの色塗りを確認し、個別に声をかける。

○「ともだちにたのしんでもらいたい」という気持ちを大切にしながら、次時の活動を計画する。

#### (4) 場の設定図(例)

全体共有時の担任の立ち位置

